TokyoOT
2026 July **No.229**
東京都作業療法士会ニュース
編集：東京都作業療法士会広報部　　発行：会長　田中勇次郎

一人ひとりにあった社会参加のカタチをみんなで一緒に考える

株式会社リニエR
扇 浩幸

このたび東京都作業療法士会 就労支援委員会の委員長を拝命いたしました扇と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

振り返ると、今から約10年前、私は中野区において就労移行支援事業と特定相談支援事業を、所属している会社内の新規事業として立ち上げました。当時は手探りの連続であり、さまざまな壁にぶつかりながらも、目の前の利用者さんとひたすら向き合い続けた日々でした。「この方にとって、働くとはどういうことか」「どんなカタチの社会参加が、その人らしい生き方につながるのか」――そうした問いを繰り返しながら、少しずつ事業の形を整えていきました。立ち上げから10年という節目のタイミングで、こうした委員会の役割をいただけたことを、心から嬉しく思っています。ここまで事業を育ててくることができたのは、ともに歩んでくださったご利用者の皆様をはじめ、地域の関係機関の方々、そして職場の仲間たちのおかげに他なりません。この場を借りて深く感謝申し上げます。

私が就労支援を通じて一貫して大切にしてきた理念があります。それは、「一人ひとりにあった社会参加のカタチをみんなで一緒に考える」ということです。働くことの意味や価値は、その人の生活歴や価値観・さまざまな環境など、あらゆる要素が絡み合って生まれるものです。作業療法士はその複雑さを丁寧に読み解き、オーダーメイドの支援を構築できる専門職だと考えています。しかし、就労支援は私たちだけでは成り立ちません。さまざまな専門職・企業・家族と連携をとり、はじめてその人らしい社会参加が叶うと思うのです。

一方、社会的な背景に目を向けると、近年は「障害者雇用の質の向上」が強く求められるようになってきました。単に雇用数を増やすことから、その人が長く、意欲をもって働き続けられるための支援へと、社会の関心が移りつつあります。それに伴い、就労場面における「アセスメント力の向上」もまた喫緊の課題となっています。個人の能力・特性・意向を的確に評価し、企業や関係機関と連携しながら支援を組み立てる力――まさに作業療法士が発揮すべき役割であり、私たちへの期待は高まっていると感じます。就労支援委員会では、こうした時代の要請に応えるべく、研修等の普及啓発・多職種連携の推進など多角的な活動に取り組んでまいります。都士会員の皆さまとともに力を合わせ、一人でも多くの方が自分らしい社会参加のカタチを見つけられるよう、皆さまと一緒に歩んでいきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

CONTENTS

◆一人ひとりにあった社会参加のカタチをみんなで一緒に考える…❶
◆令和８年度　第18回　定時社員総会報告…❷
◆第22回東京都作業療法学会参加の御礼…❸
◆「ボッチャ」による地域共生社会に向けた取り組み…❹
◆事業部活動報告　第24回看護フェスタ…❹
◆子ども委員会活動報告…❺
◆2026年度も引き続き地域づくり体制整備事業に取り組みます…❺
◆認知症関連OT交流会の報告と今後の企画…❻
◆認知症にやさしい本の紹介　VOL.56…❻
◆令和８年度診療報酬改定情報
～回復期リハ病棟の実績指数見直しについて～…❼
◆福祉用具部の活動内容のご紹介！…❼
◆脳損傷者の自動車運転再開に係る合同研修会への協力…❽
◆第１回目オンライン事例検討会のご案内…❽
◆災害時の発達障害児・支援者について…❾
◆ブロック活動報告…❿
◆教育部からのお知らせ…⓬
◆編集後記…⓬

令和８年度　第18回　定時社員総会報告

事務局長　**中里 武史**

令和８年６月28日（日）TIME SHARING新宿の会場にて、令和８年度 東京都作業療法士会 定時社員総会を開催いたしました。

総会においては18名の代議員の出席、または委任状および書面表決書の提出を合わせて31名が有効数となり、すべての議案が成立しました。ホームページの「お知らせ（会員の方へ）」にも議案書を掲載しておりますので、ご参照いただけますと幸いです。今回の総会では「令和７年度の事業報告と決算報告」と「令和８年度の事業計画および予算案」、また定款の変更による「理事定数の変更」、「役員選挙」について決議を行い、今年度のすべての議案が承認されました。

このたびの総会で、理事の定数は（会長、副会長を含む）「16名以上21名以内」となり、以下の役員が新たに選出されました。

●東京都作業療法士会　令和８年度役員　　（　　）は所属先名称　　※は新任役員

会長　三沢幸史（フリーランス）

副会長　※大村隼人（都立荏原病院）、小林法一（東京都立大学）、
林義巳（多摩リハビリテーション学院専門学校）

理事　粟沢広之（大久野病院）、※石橋裕（東京都立大学）、
猪股英輔（新宿区役所）、宇佐美好洋（帝京平成大学）、
※大舘哲詩（花はたリハビリテーション病院）、
※金澤均（医師会立中央区訪問看護ステーション）、※金子大輔（みなみ野病院）、
紙田緑（府中刑務所）、菊池大典（専門学校首都医校）、
楠本直紀（台東区立台東病院）、齊藤洸太（中野区役所）
※田原真悟（戸塚共立いずみ野病院）、原田祐輔（杏林大学）、
松岡耕史（多摩丘陵リハビリテーション病院）、
水口寛子（国立国際医療センター病院）、
山下高介（日本リハビリテーション専門学校）、※山西葉子（東京都立大学）

監事　酒井康年（うめだ・あけぼの学園）、竹中佐江子（株式会社リニエR）

（順番は五十音順）

三沢新会長と、退任される田中会長、谷村理事、伊藤理事

第22回東京都作業療法学会参加の御礼

TMG本部リハビリテーション部　**田原 真悟**

東京都の作業療法士の皆さま、第22回東京都作業療法学会への多大なるご協力、誠にありがとうございました。

本稿を執筆している５月末現在は絶賛準備中ですが、きっと素晴らしい大会になったと確信し、筆を執っております。現段階で過去最多の一般演題数をいただき、当日は「ツドい、繋がり、拡がる ～やっぱりOTが好き。～」というテーマを、皆さまに体感していただけたのではないかと思います。

私自身、人生初の大会長という大役に身が引き締まる思いでしたが、実行委員長の原田先生（杏林大学）や副実行委員長の大塚先生（西東京中央総合病院）をはじめ、最高の北多摩メンバーと「仲良く、優しく、無理なく」運営できた（多分）ことは大きな誇りです。

また、当初から掲げていた「スタッフにとって終わりではなくスタートになる学会」という想い。大変な役割ですが、OTの繋がりを実感し、新たな視点を得る好機となったはずです。運営スタッフの皆さん、本当にお疲れ様でした。この経験が皆さんの新たなスタートとなることを祈念しております。

そして、私自身もこの学会を通じて得た熱量を胸に、次なる挑戦を目論んでおり、今からワクワクが止まりません。

結びに、ご参加いただいた皆さま、クライエントや地域の皆さま、すべての関係者の方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました！

「ボッチャ」による地域共生社会に向けた取り組み

スポーツ支援委員会 担当理事 台東区立台東病院　**楠本 直紀**

スポーツ支援委員会では、障害の有無にかかわらず誰もがスポーツを楽しめる環境づくりや、作業療法士によるスポーツ支援の推進について検討を進めています。

近年、パラスポーツへの関心が高まる中、ボッチャは競技スポーツとしてだけでなく、地域交流や介護予防、学校教育など幅広い場面で活用されるようになっています。ルールが比較的簡単で、年齢や障害の有無を問わず参加できることから、共生社会の実現に向けた重要なツールとして期待されています。

日本ボッチャ協会では、自治体や教育機関、都道府県協会等と連携しながら「ボッチャ未来創生プロジェクト（地域練習会)」を実施し、地域における選手やスタッフの育成を進めています。定期的に東京都内でも地域練習会が開催される予定であり、競技普及や人材育成の取り組みが進められています。

現在、東京都作業療法士会としてボッチャ事業への関与は限定的ですが、作業療法士には競技支援だけでなく、活動参加の促進や環境調整、地域づくりなど、多くの場面で貢献できる可能性があります。スポーツ支援委員会としても、今後はボッチャをはじめとしたパラスポーツとの連携を模索しながら、会員の皆さまが関わる機会を創出していきたいと考えています。

ボッチャに興味のある方、地域でのスポーツ支援やパラスポーツ活動に関心のある方は、ぜひスポーツ支援委員会までご連絡ください。皆さまとともに、スポーツを通じた地域共生社会の実現を目指していきたいと思います。

事業部活動報告　第24回看護フェスタ

事業部 帝京大学医学部附属病院　**村上 元太**

5月12日の「看護の日」に合わせて開催された第24回看護フェスタに参加いたしました。「看護の日」は、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、旧厚生省により制定されたもので、全国各地で看護や健康に触れるイベントが開催されています。

当日は「生活行為・認知症のリハビリテーション」をテーマにブースを担当し、約30名の方にご相談いただきました。相談内容は、日常生活に関する悩みから認知症に関することまで幅広く、地域で生活される方々の関心や不安に直接触れる貴重な機会となりました。

今回は特にご高齢の方の参加が多く、生活の中で感じている不安や困りごとを身近に相談できる場の必要性を改めて感じました。また、新宿駅西口で開催されていた頃から毎年参加されている方や、近隣にお住まいの方も来場されており、地域に根ざしたイベントとして、一つのコミュニティが形成されていることを感じました。

今回の参加を通して、地域で生活する方々の声に直接触れ、その地域やその人の生活に寄り添うことの大切さを改めて認識いたしました。今回得られた学びを、9月25日の「作業療法の日」に関連した企画などにも活かし、学生を対象とした作業療法の普及啓発活動にも取り組むことで、作業療法士会としての取り組みを地域に根ざした活動へと発展させていきたいと思います。

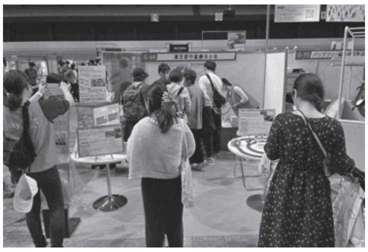
子ども委員会活動報告

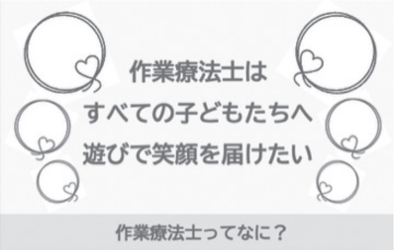
子ども委員会　**石井 ハル**

4/18（土）・4/19（日）に有明GYM-EXにてキッズフェスタが開催されました。都士会の出展では、Mabeee電池によるプラレールの操作体験や感覚グッズの体験、生活行為の工夫に関するパネル展示などを行い、立ち寄ってくださった方々に作業療法を知っていただくきっかけづくりを行いました。また、我々作業療法士にとっても、日々の実践を振り返りながら、作業療法について改めて考える機会になったのではないかと思います。

今回の新たな取り組みとして、こどもの作業療法の魅力を伝えるパンフレットを作成しました。子ども委員会の有志が集まり、限られた紙面の中で「作業療法の魅力をどう伝えるか」をテーマに検討を重ねながら制作を進めました。試行錯誤を繰り返しながらも、最終的には、メンバー全員が納得できる内容に仕上げることができました。

作業療法の魅力は、一方的な説明だけで伝わるものではなく、体験や対話を通して共有されていくものだと感じています。このパンフレットも、そのような対話を生み出すための一つのツールとして活用していければ幸いです。ぜひ多くの皆さまにお手に取っていただき、子どもの作業療法について知っていただくきっかけとなれば嬉しく思います。





2026年度も引き続き地域づくり体制整備事業に取り組みます

地域づくり共創部　**金澤 均**

地域づくり共創部では、地域づくり体制整備事業として東京都内の隅々の地域に作業療法を届けていくという目標のもと、2023年度から地域づくり人材育成研修に取り組んでおります。本事業では地域づくり人材育成研修として、「基礎編」「実践基礎編」「実践編」という３つの研修を運営しております。その名の通り徐々に実践に近い研修内容にステップアップしていく形式をとっており、すでに地域で活躍する方も、これから地域で実践したい方も､病院や施設と地域と間接的に関わる全ての方に受講していただける内容となっております。

2026年度の研修計画は、【基礎編】アーカイブ配信によるオンライン研修を毎月開催【実践基礎編】10月中旬の週末にオンライン開催、【実践編】12月に参集型研修として開催。年明けに地域事業の実践者による実践報告会と実践者の交流会【実践報告会 カフェ＆バー】を企画しております。会員の皆様にはこの機会に是非ご受講、ご参加をご検討いただけますと幸いです。

また、東京都理学療法士協会と東京都言語聴覚士会と共同で、東京都地域リハビリテーション専門人材育成研修も実施いたします。2026年度は７月４日土曜に開催し、９月中旬の平日夜にオンラインでの地域リハビリテーション専門人材育成研修アドバンス研修を予定です。

地域づくり共創部は、今年度も引き続き地域での作業療法実践を後押ししていけるよう、積極的に活動を進めてまいりたいと思います。

認知症関連OT交流会の報告と今後の企画

認知症の人と家族の生活委員会　**山下 高介**

認知症の人と家族の生活支援委員会（以下，当委員会）では，６月19日に認知症に関わる作業療法士の交流会を開催いたしました．内容は，委員によるオレンジカフェの実践報告と全体での意見交換を行いました．交流会形式の企画は，当委員会では久しぶりだったのですが多くの方にご参加いただき，好評のうちに終えることができました！また，開催したいと考えていますので，ぜひよろしくお願いします．

さらに本年度！当委員会では認知症に関する実践現場で活躍できる作業療法士の育成を目指して，研修会の企画運営に力を注いでいきます！

ぜひ，多くの方のご参加をお待ちしております！

【2026年度研修予定】

①８月22日認知症アップデート研修
②オレンジカフェに関する研修（10月頃を予定）
③認知症アップデート研修後のステップアップ研修（１月頃を予定）

認知症にやさしい本の紹介　VOL.56

図書館司書　**舟田 彰**

『認知症になって幸せな人、不幸な人』

著/繁田雅弘

認知症に対する捉え方を根本から覆す一冊である。著者は長年、認知症専門医として多くの患者と向き合ってきた経験から、認知症になっても「幸せ」を感じられる人と、そうでない人の違いを鮮やかに解き明かしている。本書の核心は、認知症を「記憶を失う悲劇」としてのみ捉えるのではなく、生き方や関係性のあり方を問う視点にある。認知症という変化を受け入れ、自らの人生の新しい形を模索できる人は穏やかな生活を送れる一方、かつての自分に執着し、他者との摩擦を抱える人は苦悩を深めていく。著者は、周囲のサポートのあり方や、「できないこと」への着目から「今できること」へのシフトがいかに重要であるかを、臨床の例を交えて具体的に提示する。特筆すべきは、単なる医療的な知見の解説にとどまらず、私たちがどう老い、どう最期まで自分らしく生きるかという哲学的な問いを投げかけている点だ。認知症は個人の問題ではなく、家族や地域社会を含む「関係性の中の出来事」であるという指摘は深く心に響く。読み終えた後、認知症への過度な恐怖心は消え、むしろ現在を大切に生きることへの前向きな意欲が湧いてくるように感じた。認知症の当事者やその家族はもちろん、誰もが避けられない「老い」と向き合うすべての人にとって、人生の指針となる貴重な一冊だ。さて、私事です。宮前図書館を離れ、役職定年を機に自身のあり方を見直しました。今後は個人として認知症への学びを深めます。

令和８年度診療報酬改定情報
～回復期リハ病棟の実績指数見直しについて～

保険部担当理事　**松岡 耕史**

　回復期リハ病棟における実績指数の基準引き上げや、算出方法の変更、除外対象患者の基準が変更されたためご確認ください。

１．実績指数の基準の見直し

	改定前	改定後
回復期リハ病棟入院料１	40以上	42以上
回復期リハ病棟入院料２	−	32以上
回復期リハ病棟入院料３	35以上	37以上
回復期リハ病棟入院料４	−	32以上

※回復期リハ病棟入院料1において、回復期リハ強化体制加算を算定する際は実績指数48以上が必要

２．実績指数の算出方法の見直し

　実績指数の算出方法について、FIM運動項目のうち「歩行・車椅子」及び「トイレ動作」の得点について、入棟時に５点以下、かつ退棟時に６点以上に上がった場合、分子のFIM運動項目利得に１点を加える。

患者毎の（①FIM得点（運動項目の退棟時と入棟時の差）＋「歩行・車椅子」及び「トイレ動作」が入棟中に５点以下から６点以上に上がった場合、それぞれ１点を加点）の全患者の合計

―――――――――――――――――――――――――――――

患者毎の（②入棟から退棟までの在棟日数 ／ 状態ごとの回復期リハ病棟入院料の算定上限日数）の全患者の合計

３．実績指数の除外対象患者・除外できる割合の見直し

【実績指数の除外対象患者】改定前	【実績指数の除外対象患者】改定後
①FIM運動項目20点以下	①FIM運動項目20点以下（退院までの疾患別リハ料の１日平均実施単位数が６単位を超えたものについては実績指数の算出対象に含む）
②FIM運動項目76点以上	②FIM運動項目76点以上
③FIM認知項目24点以下	③FIM認知項目14点以下
④年齢80歳以上	削除
⑤急性増悪等	④急性増悪等
実績指数の算出から除外できる患者割合30/100	実績指数の算出から除外できる患者割合20/100

福祉用具部の活動内容のご紹介！

みなみ野病院（福祉用具部 部長）　**金子 大輔**

　今回は、福祉用具部の活動について皆さんへご紹介したいと思います。福祉用具部の活動としては、①福祉用具に関連した研修会の企画（年２～３回:コミュニケーション支援、シーン別の住環境に関連した福祉用具、シーティングやリフトなどの臨床につながる研修会）、②イベント出展やセミナー開催などへの協力（キッズフェスタ、子どものための福祉機器展など）、③日本作業療法士協会への事業協力（福祉用具相談支援システム、生活行為工夫情報事業、HCR相談コーナー、AT利活用支援事業など）が挙げられます。日本作業療法士協会が新規で取り組むAT利活用支援事業では、作業療法士によるアシスティブ・テクノロジー（AT）の活用を支援する事業の展開となります。デジタル技術やATを作業療法の実践に活かし、対象者の「できる」を広げる支援ともなります。どの活動をとっても、会員皆さんの臨床に直結する知識・技術を発信する活動を行っています。

　是非、研修会などに参加して日々の臨床つながる知識・技術のアップデートを一緒に行いましょう！

　福祉用具部にご意見のある方や提案、協力したい方は
QRコードを読み取り、フォームへの入力をお願いします！

脳損傷者の自動車運転再開に係る合同研修会への協力

自動車運転と移動支援対策委員会　**大場 秀樹**（東京都リハビリテーション病院）

当委員会では、脳損傷者の自動車運転再開支援の充実を目的として、「脳損傷者の自動車運転再開に係る合同研修会」の企画・運営に協力しています。本研修会は東京都作業療法士会の後援のもと、都内で運転再開支援に携わる医師、作業療法士、警視庁運転免許本部、東京都指定自動車教習所協会および指定自動車教習所が集い、相互理解と連携構築を目的として開催している取り組みです。

2024年３月に第１回、同年10月に第２回、2026年３月に第３回研修会を開催し、多くの関係機関にご参加いただきました。研修会では、各医療機関の運転再開支援の実践や課題、警視庁による制度改正や臨時適性検査に関する情報提供、教習所における実車評価の取り組みなどが共有され、活発な意見交換が行われています。第３回研修会では、トヨタ自動車も参加し、自動車運転評価におけるDXやデータ活用など企業の先進的な取り組みが紹介されました。医療・行政・教習所に加え、企業も交えた議論が行われたことで、東京都における運転再開支援の新たな可能性が示されました。

東京都では運転再開支援を実施する医療機関や実車評価を受け入れる教習所が増えつつある一方で、支援体制や評価方法の標準化、情報共有の仕組みづくりなど、多くの課題も残されています。委員会では今後も合同研修会を継続し、医療・行政・教習所・企業の連携を深めながら、東京都における運転再開支援ネットワークの構築を目指していきます。

第１回目オンライン事例検討会のご案内

就労支援委員会　**牧 利恵**

就労支援委員会では、就労支援に関する知識向上やスキルアップを目的とした「オンライン事例検討会」を毎年開催しております。今年度の開催が決定いたしましたので、この場をお借りして第１回目のご案内をさせていただきます。

〈日時〉2026年８月５日（水）、19：00～20：30

〈定員〉10名

〈対象〉東京都作業療法士会の会員

〈開催方法〉ZOOM

〈テーマ〉訪問における就労支援の事例

〈参加費〉無料

〈申し込み方法〉QRコードまたは下記URL
https://forms.gle/WqPms8n6qNCvYgGn7
※申し込み締め切り2026年８月２日（日）17時まで

〈お問い合わせ〉shuuroushien.tokyo.ot@gmail.com（就労支援委員会宛）

昨年度は「就労移行」と「高次脳機能障害」をそれぞれテーマに、日々の支援の様子やポイントを事例検討という形で行いました。今年も、就労支援の実際を分かりやすい事例検討スタイルでお話するとともに、参加者の皆さんの日々の取り組みや悩みごとなどを一緒に考えていく時間も予定しております。就労支援に関する知識向上はもちろんのこと、OT同士のつながりも大切にしていきたいという気持ちからアットホームな雰囲気で行っておりますので、聴講だけしたい方も、たくさん交流したい方もお気軽にお申し込みください。皆さんの参加を心よりお待ちしております。

災害時の発達障害児・支援者について

保険部　**住田 多恵子**

被災地における、発達障害のある人やご家族の生活には、発達障害を知らない人には理解しにくい困難があります。発達障害児・者への対応について理解して対応できると、本人も周囲の方々も助かります。

発達障害がある人は、見た目では障害があるようには見えないことがあります。家族など本人の状態をよくわかっている人に関わり方を確認しましょう。

＜こんな場合には、このように対応してみましょう＞

①変化が苦手な場合が多く、不安から奇妙な行動や強い抵抗を示すことがあります。
　→してほしいことを具体的に、穏やかな声で支持する。（この場所に座ってください。）
　　スケジュールや場所の変更などを具体的に伝える。（～（予定）はありません。～します。）

②感覚刺激に対して過敏（大勢いる場所が苦手等）や鈍感（怪我をしていても気づかない等）であることがあります。
　→過ごす環境に配慮する。（部屋の角や別室等個別空間の保証）
　　健康状態を工夫して確認する。（怪我の有無など本人の報告・訴えだけでなく身体状況を確認する。）

③話し言葉を聞き取るのが苦手だったり、伝えられないことがある。
　→説明の仕方を工夫する。（文字や絵、実物で目に見える形で説明する。個別・簡潔・具体的な声かけ）

④見通しの立たないことに強い不安を示す。
　→安定したリズムで日常が送れるように、当面の日課の提案や空いた時間を過ごす活動の提示
　　（筆記用具と紙、パズル、図鑑、ゲームなどの提供、簡単な作業の割り当て等）

⑤危険な行為が分からない
　→他に興味のある遊びや手伝いに誘う。
　　行ってはいけない所や触ってはいけない物が分かるように「×」などの目印をつけておく

＜健康状態や心身の疲れを確認しましょう＞

・発達障害のある人は、体調不良やけがに気づいていない場合があります。周囲が気づかずに放置すると、状態が悪化してしまう場合があるので丁寧な観察（息切れ、咳、火傷や切り傷、打撲、着衣の状態等）と聞き取り（いつもより寒くないですか？歩く時にふらふらしませんか等）が必要です。
・何気ないことでも、日常生活に困難をきたすぐらい苦痛を感じることがあります。そのためストレスの蓄積が起きやすく、支援を優先的に考えなければならない場合があります。（例:好き嫌いによる食べ残しの多さ、反応が遅い、どこに行けばいいかわからない、耳塞ぎや目とじなど）

＜家族の状態を確認しましょう＞

・災害の影響で子どもと家族が離れられなくなる場合や、避難所の中で理解者が得られない場合に家族のストレスは高まります。本人の支援を一番長い時間担当する家族のサポートを行うことは効率的です。配給や買い物などに困っている場合や騒いでしまう時に、家族の代わりに相手をしたり、特性を家族の了解の元で周囲に説明することも助かります。

＜対応に協力してくれる人が周囲にいるか確認しましょう＞

・一人ひとりの健康状態やストレスに繋がる状況が様々で、対応方法が見つけにくいことがあります。配慮が必要な時は、周囲に本人を知っている人がいるか、協力してもらえそうかを確認が必要です。

参考HP：国立障害者リハビリテーションセンター「被災地で、発達障害児・者に対応されるみなさんへ（リーフレット版）」
https://www.rehab.go.jp/ddis/disaster/disaster_leaflet/

ブロック活動報告

区東部・東北部ブロック

ライフクリニック　馬場 博文

皆さま、はじめまして。区東部・東北部ブロックの馬場博文と申します。

このたび、2026年６月より前任の大瀧様から引き継ぎ、区東部・東北部ブロック長を務めさせていただくこととなりました。これまで先輩方が築いてこられたブロックの歴史と伝統を大切にしながら、さらなる発展に向けて微力ながら尽力してまいります。どうぞよろしくお願い致します。また、当ブロックでは今年度、新たに３名の仲間を迎え、総勢29名の体制となりました。急性期・回復期・療養型・精神科病院をはじめ、介護保険施設や在宅分野など、多様な領域で活躍する作業療法士が集い、それぞれの強みを生かしながら活発に活動しております。

ブロック活動をさらに充実させるため、ブロック委員も随時募集しております。ご興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひお気軽にお声がけください。皆さまとともに学び、つながり、地域に貢献できるブロックづくりを進めてまいりたいと考えております。

今後とも区東部・東北部ブロックをどうぞよろしくお願い致します。

連絡先：tokyo.ot.toubu.touhoku@gmail.com

区西部・西南部ブロック

日本赤十字社総合福祉センターレクロス広尾　石川 未来

西部西南部ブロックは、次年度の東京都作業療法学会を担当することになっております。それに向けて、４月からブロック内で会議を進めているところであります。当ブロックは、本年度より待望の新しく委員を担ってくださる方が一名増えました。しかしながら、圧倒的に少人数のブロックとなっております。

そこで、この広報を読まれている方にお願いがございます。次年度学会の実行委員を大大大募集致します。内容はご相談に応じます。少しでもご興味のある方、ご協力いただける方は、お気軽に当ブロックのアドレスにご連絡いただけますと助かります。よろしくお願い申し上げます。

連絡先：seibuseinanbu.ot@gmail.com

区西北部ブロック

イムス板橋リハビリテーション 病院　渡邊 円花

初めまして。イムス板橋リハビリテーション病院の渡邊円花と申します。入職３年目となり、他施設や他領域での作業療法がどのように展開されているのかを学びたいと思い、ブロック活動に参加させていただきました。様々な視点や経験に触れ、自施設での臨床にも還元していければと思っております。現在、ブロック委員も募集しておりますので、ご興味のある方はぜひお気軽にご連絡ください。どうぞよろしくお願いいたします。

連絡先：tokyo.ot.seihoku.block@gmail.com

区中央部・南部・島しょブロック

聖路加国際院　阿部 幸太

皆様こんにちは、区中央南部島しょブロック委員の阿部と申します。当ブロックでは、今年度もつながりを意識したブロック活動を検討しております。７月10日には「OT新人教育会議」として、何処の施設や病院でも悩んでいるであろう新人教育に関する実践報告や情報共有などを行います。９月12日には「運転支援ビギナー研修会-経験ゼロから学ぶ評価と支援のポイント」として、自動車運転に関する研修を企画しております。ご興味のある方は、ぜひとも参加のご検討をお願い致します。また、ブロック活動に興味のある方、他のOTとつながりたい方など、ぜひ一度活動や会議の様子を見学してみてください！ご連絡お待ちしております。

連絡先：ku.chuou.nanbu.ot@gmail.com

北多摩ブロック

東京YMCA医療福祉専門学校　竹本 龍太

当ブロックは、７月５日に杏林大学で開催された第22回東京都作業療法学会の運営を担当し、約１年をかけてさまざまな準備や企画、広報活動を行ってきました。この原稿を書いている時点では、学会開催まであと１か月。最終調整の真っただ中で、委員一同慌ただしい日々を過ごしています。私は広報部門長としてホームページの運営やSNSでの情報発信を担当し、多くの経験を積むとともに、たくさんの方々とのつながりを感じることができました。まさに学会テーマである「ツドい、繋がり、拡がる」を、運営を通して実感した１年だったと思います。この経験を今後の活動にも活かしていきたいです。また、学会運営を通して北多摩ブロック委員の結束力の強さやパワーを改めて感じることができました。大変なこともありましたが、それ以上に学びや達成感の多い１年でした。

北多摩ブロックでは、ブロック委員を随時募集しています。「少し興味がある」「どんな活動をしているのか知りたい」という方も大歓迎です。ぜひお気軽に下記連絡先までお問い合わせください！

連絡先：ot.kitatama@gmail.com

西多摩・南多摩ブロック

デンマークイン若葉台　稲場 大幸

【領域を超えたつながりを目指して】

作業療法士が活躍する場は、病院、介護施設、訪問リハビリテーション、地域活動、就労支援など多岐にわたります。一方で、日常業務の中では他施設や他領域の作業療法士と交流する機会は限られているのではないでしょうか。

西多摩・南多摩ブロックでは、領域や所属施設を超えたつながりづくりを目的として、2026年６月26日にオンライン交流研修会を企画しました。

当日は、急性期、整形領域、回復期領域、就労支援領域で活躍する作業療法士による話題提供に加え、小グループでの交流会を行いました。それぞれの実践や工夫、課題などを共有しながら、新たな視点や学びを得る機会となることを期待しています。

今後も西多摩・南多摩ブロックでは、会員同士が気軽につながり、学び合える場づくりに取り組んでまいります。

連絡先：nishitamaminamitama.block@gmail.com

各市区町村の所属ブロックに関しては都士会ホームページでご確認ください。

教育部からのお知らせ

2026年度　現職者選択研修（発達障害領域）開催のお知らせ

日時：2026年８月23日（日）９：00～16：10

定員：70名

研修方法：Zoomによるオンライン研修

申し込み期限：2026年８月16日（日）

※詳細は東京都作業療法士会HPまたはQRコードをご参照ください。

発達選択研修

2026年度　現職者共通研修開催のお知らせ

日時：①2026年９月13日（日）　②2026年９月27日（日）

定員：各講座　80名

研修方法：Zoomによるオンライン研修

申し込み期限：①2026年９月６日（日）　②2026年９月20日（日）

※詳細は東京都作業療法士会HPまたはQRコードをご参照ください。

共通研修①　共通研修②

編集後記

広報部に所属して早５年目。ようやく（?）初めて編集後記を執筆しております。橋本です。巻頭言をご執筆くださった扇さんとは、最近まで同じ研究室で切磋琢磨した同志であるため、今回このようにコラボできていることが感慨深い思いです。

広報部員になってから、あれよあれよという間に、普段は関われないような方々へインタビューに伺い、広報誌「OTO」の執筆に頭を悩ませ、気づいたら都士会ニュースでお見かけする名前に知り合いが増え…と多くの経験と変化を享受しています。普段、手軽なSNSで発信することすら皆無な私にとって、自分の言葉が誌面に残り続けている事実にはいろんな意味で震えます。とはいえ、広報誌が届いても「読まないで捨てちゃう」なんてお声を聞き、「分かります…」と共感しつつ少し切なく思ったり、反対に昨年度のOTO第８号『作業療法とファッションショー』は好評で「読んだよ！」とのお声がけをいただいて嬉しく思ったり、一喜一憂する日々です。

さて、そんな広報誌のこの編集後記を読んでくださっている猛者は一体どのくらいいらっしゃるのでしょうか。最終ページでたまたま目が合っただけかもしれませんが、ここまで読んでいるのなら、あなたはもう立派な「OT広報ファン」です。巷では前頁のようにブロック委員の募集が盛んですが、広報部も人手不足感が否めません。こんなニッチな場所まで熟読してくださる愛ある方なら、即戦力間違い無しです。ぜひ「広報やりたいです」とお声がけいただける日をお待ちしております。

広報部　橋本 奈実

誤記訂正

東京都作業療法士会ニュースNo.228 巻頭言２ページにて杉原素子元OT協会長の留学先をUCLAと表記いたしましたが、正しくはUSC（南カリフォルニア大学）でした。お詫びして訂正いたします。

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会　事務局

〒160-0022　東京都新宿区新宿５－４－１　新宿Qフラットビル501号室

TEL：03-6380-4681　　FAX：03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ　http://tokyo-ot.com/

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口　postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。
ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。